

浮世絵で旅気分

An Ukiyo-e Journey : Images of Travel from Edo Japan

2022年1月4日(火)～1月30日(日)

主催：徳川美術館・名古屋市蓬左文庫・毎日新聞社

江戸時代中期、全国の地誌への関心が高まると、旅行文芸書や、各地のガイドブックとしての名所図会が刊行されるようになり、さらにカラフルな1枚刷りの風景版画となって盛んに作られるようになりました。14歳で亡くなった尾張徳川家13代慶藏(1836～49)の副葬品にも数多くの風景版画が含まれているほどです。

風景版画の立役者であった歌川広重(1797～1858)は、保永堂から出版した「東海道五拾三次之内」が人気を博し、風景画の第一人者に躍り出した。写実を基本とする名所図会とは異なり、天候や時間帯をさまざまに設定し、登場人々にも工夫を凝らすなど独自の脚色をちりばめた作品群ひとときわ旅の気分が溢れているように感じられます。

本展では、旅の雰囲気を生み出すための広重の工夫に注目し、当時の人々が作品から感じたであろう旅の気分を追体験してみようと思います。

※ 都合により出品作品が変更となる場合がございます。
※ 展示リストの順番は陳列の順番と必ずしも一致しません。

No.	作品名	作者	時代・世紀	所蔵者
第一章 街道を描く				
1	東海道綱目分間之図 5帖	遠近道印著 菱川師宣画	江戸 元禄3年(1690)	名古屋市博物館
2	木曾路名所一覽(京都江戸間絵図) 1枚	葛飾北斎画	江戸 文政2年(1819)	名古屋市蓬左文庫
3	東海道行列双六 6枚続	橋本貞秀画	江戸 文久3年(1863)	名古屋市博物館
4	東海道五拾三次一覽 10枚続	二代歌川広重画	江戸 文久3年(1863)	知立市歴史民俗資料館
5	東海道名所図会 12枚続	歌川芳虎画	江戸 元治元年(1864)	名古屋市博物館
第二章 地誌と名所図会、旅行文学				
6	塩尻 67冊のうち	天野信景著	江戸 17～18世紀	名古屋市蓬左文庫
7	張州府志 26冊のうち	松平秀雲・千村伯濟編	江戸 宝暦2年(1752)序	名古屋市蓬左文庫
8	都名所図会 11冊のうち	秋里籬島著 竹原信繁画	江戸 天明7年(1787)版	名古屋市蓬左文庫
9	尾張名所図会 前篇 全7冊のうち	岡田 啓・野口道直等編 森 高雅・小田切春江等画	江戸 天保15年(1844)刊	名古屋市蓬左文庫
10	東海道名所図会 6冊のうち	秋里籬島著 北尾政美等画	江戸 寛政9年(1797)刊	名古屋市蓬左文庫
11	木曾路名所図会 7冊のうち	秋里籬島編 西邨中和画	江戸 文化2年(1805)刊	名古屋市蓬左文庫
12	東海道中膝栗毛 18冊のうち	十返舎一九作	江戸 文化11年(1814)刊	名古屋市蓬左文庫
13	浮世道中膝栗毛 10冊のうち	十返舎一九作	江戸 享和2年(1802) ～文化11年(1814)	名古屋市蓬左文庫
14	絵本道中膝栗毛 2冊のうち	十返舎一九作 溪斎英泉画	江戸 19世紀	名古屋市蓬左文庫
15	東海道名所図会 6冊のうち	秋里籬島著 北尾政美等画	江戸 寛政9年(1797)刊	知立市歴史民俗資料館
第三章 名所図会と街道絵				
16	春興五十三駄之内 池鯉鮒	葛飾北斎画	江戸 享和4年(1804)頃	知立市歴史民俗資料館
17	東海道一ト眼千両 池鯉鮒 三木十左衛門	二代歌川広重・豊原国周画	江戸 安政2年(1855)	知立市歴史民俗資料館
18	東海道五十三次 四十 池鯉鮒	葛飾北斎画	江戸 文化年間(1804～18)	名古屋テレビ放送株式会社
19	東海道五拾三次之内 池鯉鮒 首夏馬市(保永堂版)	歌川広重画	江戸 天保3年(1832)頃	知立市歴史民俗資料館
20	東海道 州九 五十三次之内 池鯉鮒(蔦吉版東海道)	歌川広重画	江戸 弘化4年(1847) ～嘉永5年(1852)	知立市歴史民俗資料館
21	諸国名橋奇覧 三河の八つ橋の古図	葛飾北斎画	江戸 天保3年(1832)頃	知立市歴史民俗資料館
22	東海道張交図絵 赤坂・藤川・岡崎・池鯉鮒・鳴海	歌川広重画	江戸 嘉永5年(1852)	知立市歴史民俗資料館
23	五十三次名所図会 四十 池鯉鮒 八ッ橋むら杜若の古せき(竪絵東海道)	歌川広重画	江戸 安政2年(1855)	知立市歴史民俗資料館
24	双筆五十三次 池鯉鮒 八ッ橋村杜若の古蹟	歌川広重・歌川国貞画	江戸 安政2年(1855)	知立市歴史民俗資料館
25	東海道五十三対 池鯉鮒	歌川国芳画	江戸 天保14年(1843) ～弘化4年(1847)	知立市歴史民俗資料館
26	東海道名所之内 池鯉鮒八ッ橋(行列東海道)	歌川国貞画	江戸 文久3年(1863)	知立市歴史民俗資料館

No. 作品名	作者	時代・世紀	所蔵者
---------	----	-------	-----

※「木曾海道六拾九次之内」の作品はすべて徳川慶藏(尾張家13代)所用。

※「木曾海道六拾九次之内」の作品の変色は、徳川慶藏の墓所の副葬品として長期間地中にあった影響による。

第四章 広重の風景画

〈時間〉			
27	日本橋 朝之景(保永堂版)		
28	東海道五拾三次之内 関 本陣早立(保永堂版)	歌川広重画	江戸 天保3年(1832)頃 名古屋市博物館
29	沼津 黄昏図(保永堂版)		
30	洗馬		
31	長久保		
32	木曾海道六拾九次之内 望月	歌川広重画	江戸 天保6~8年(1835~37)頃 徳川美術館
33	軽井沢		
34	宮ノ越		
〈天候・気象〉			
35	東海道五拾三次之内 庄野 白雨(保永堂版)	歌川広重画	江戸 天保3年(1832)頃 名古屋市博物館
36	木曾海道六拾九次之内 須原	歌川広重画	江戸 天保6~8年(1835~37)頃 徳川美術館
37	東海道五拾三次之内 土山 春之雨(保永堂版)	歌川広重画	江戸 天保3年(1832)頃 名古屋市博物館
38	大磯 虎ヶ雨(保永堂版)		
39	木曾海道六拾九次之内 垂井	歌川広重画	江戸 天保6~8年(1835~37)頃 徳川美術館
40	東海道五拾三次之内 亀山 雪晴(保永堂版)	歌川広重画	江戸 天保3年(1832)頃 名古屋市博物館
41	木曾海道六拾九次之内 大井	歌川広重画	江戸 天保6~8年(1835~37)頃 徳川美術館
42	和田		
43	東海道五拾三次之内 三島 朝霧(保永堂版)	歌川広重画	江戸 天保3年(1832)頃 名古屋市博物館
44	四日市 三重川(保永堂版)		
〈宿場にて〉			
45	藤枝 人馬継立(保永堂版)		
46	東海道五拾三次之内 御油 旅人留女(保永堂版)	歌川広重画	江戸 天保3年(1832)頃 名古屋市博物館
47	赤阪 旅舎招婦ノ図(保永堂版)		
48	下諏訪		
49	木曾海道六拾九次之内 贄川	歌川広重画	江戸 天保6~8年(1835~37)頃 徳川美術館
50	福しま		
〈旅の人・地の人〉			
51	東海道五拾三次之内 由井 薩埵嶺(保永堂版)	歌川広重画	江戸 天保3年(1832)頃 名古屋市博物館
52	木曾海道六拾九次之内 上ヶ松	歌川広重画	江戸 天保6~8年(1835~37)頃 徳川美術館
53	東海道五拾三次之内 水口 名物干瓢(保永堂版)	歌川広重画	江戸 天保3年(1832)頃 名古屋市博物館
54	木曾海道六拾九次之内 細久手	歌川広重画	江戸 天保6~8年(1835~37)頃 徳川美術館
55	三渡野		
56	東海道五拾三次之内 浜松 冬枯ノ図(保永堂版)	歌川広重画	江戸 天保3年(1832)頃 名古屋市博物館
57	木曾海道六拾九次之内 伏見	歌川広重画	江戸 天保6~8年(1835~37)頃 徳川美術館
58	東海道五拾三次之内 袋井 出茶屋(保永堂版)	歌川広重画	江戸 天保3年(1832)頃 名古屋市博物館
59	木曾海道六拾九次之内 関か原	歌川広重画	江戸 天保6~8年(1835~37)頃 徳川美術館
60	今須		
61	東海道五十三次之内 鞠子(行書版)	歌川広重画	江戸 天保12~13年(1841~42) 名古屋テレビ放送株式会社
62	本山		
63	木曾海道六拾九次之内 醒ヶ井	歌川広重画	江戸 天保6~8年(1835~37)頃 徳川美術館
64	鳥居本		
65	御嶽		

徳川美術館・名古屋市蓬左文庫

〒461-0023 名古屋市東区徳川町

TEL 052-935-6262・TEL 052-935-2173

<https://www.tokugawa-art-museum.jp/> ・ <http://housa.city.nagoya.jp/>